

GFPグローバル産地計画

※申請者名：株式会社百笑市場、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

◆現状

- ・弊社は、茨城県のコメ生産者からなる法人で、輸出商社を介さず、海外の消費者に直接茨城県産の美味しい農産物を届けることを目的に設立。
- ・県内大規模コメ生産者からなる「茨城県産米輸出推進協議会（以下協議会）」を主要な仕入先とし、弊社役員は協議会の設立メンバー。当初 8 名であった協議会員（生産者）も現在は70名を超える。販売促進にあたっては、生産者自ら渡航し、店舗での販売プロモーションや市場調査を行うなどし、弊社は生産者と連携し輸出開拓に取り組んできた。
- ・この結果、H28年に始まった県産米の輸出は、令和元年度には輸出額0.9億（650t）まで拡大。日本産米に対するニーズは依然として高く、主な輸出先である北米や東南アジアを中心にさらなる販路拡大を見込んでいる。

◆課題

1 生産面

- ・現地需要に対する供給量のギャップの解消

2 流通面

- ・輸出拡大に必要な保管場所の確保
- ・集荷体制の増強

3 販売面

- ・新規開拓および既存商流の増強の両輪による販路の拡大
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた販売手法・販促手法の検討



生産者による米国での販促活動の様子
※茨米（UBARA RICE）は、米国で展開する弊社独自ブランド

2. 輸出事業計画の取組内容

◆取組内容

1 生産面

- ・実需要者との全量完全契約栽培および需要者のニーズに合った品種の作付けの実施。

2 流通面

- ・新規保管場所の確保
- ・各エリアの地場企業と連携し、迅速な集荷体制を構築する。

3 販売面

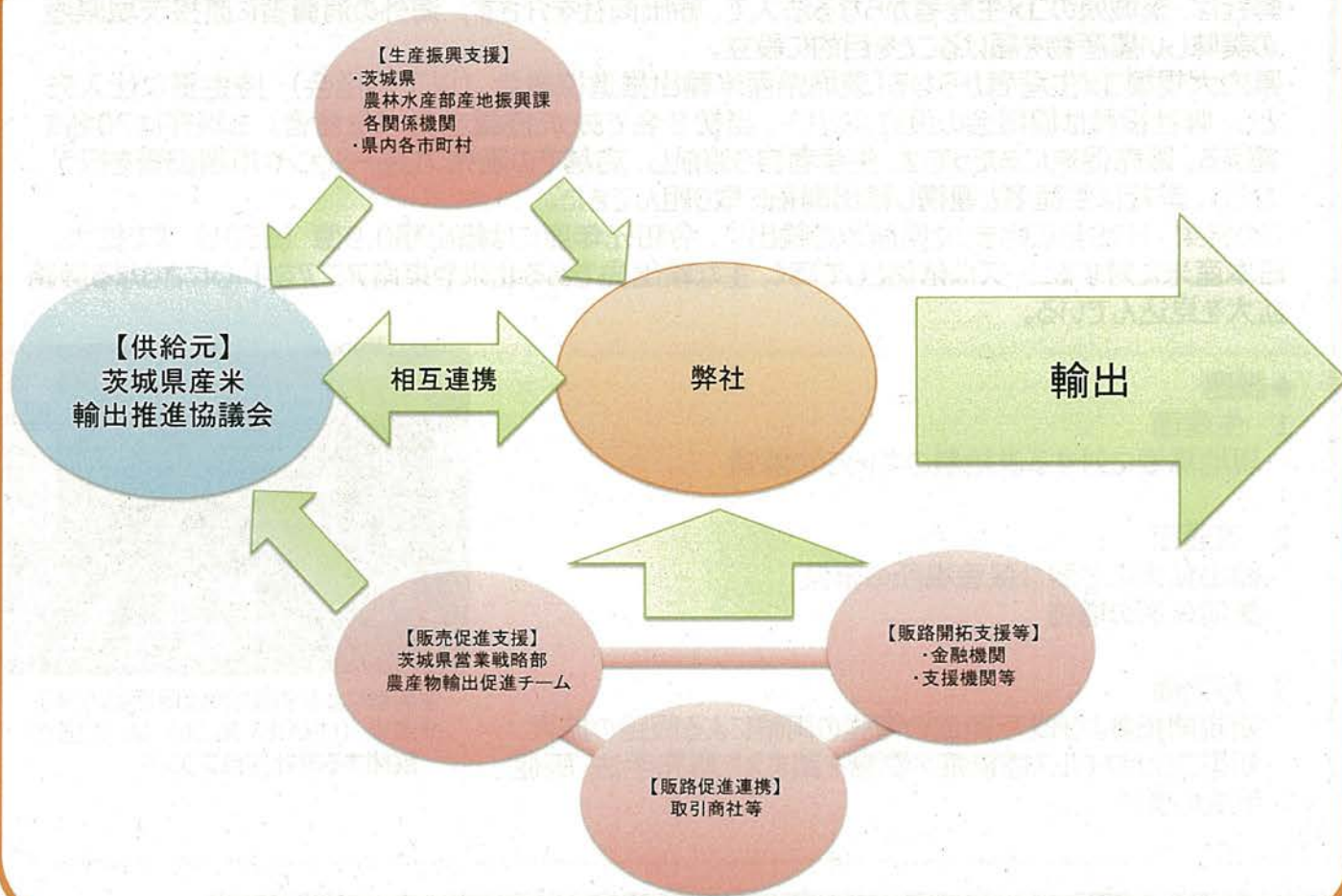
- ・精米加工施設の整備及び既存倉庫の低温倉庫化によるFSSC22000の取得と加工体制の強化により、商品の付加価値の向上やラインナップ拡大等による現地ニーズに合わせた販売提案を展開。
- ・店舗（対面）と現地ECサイト（非対面）の両輪で販路拡大を図る。

GFPグローバル産地計画

※申請者名：株式会社百笑市場、品目：コメ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

下記体制により、定期的な情報共有や取組の検討を図り、輸出拡大に向け取り組む。



4. 輸出目標額

前述2記載のとおり、生産者と一体となって、新規販路開拓・既存商流の増強に取り組み、下図のとおり輸出拡大を図る。

	現状（令和元年度）	取組後（令和5年度）
輸出額	0.9億	2.7億
輸出量	650t	1,650t
輸出先国	米国、香港、シンガポール等	北米、東南アジア等